

スカウトちば

SCOUT CHIBA

「スカウトちば」は、日本ボーイスカウト千葉県連盟の広報誌です。

Vol.105

2024年12月1日発行

CONTENTS

千葉県連盟結成75周年記念
第6回千葉県ベンチャー
第13回日本アグーナリー
救急法講習会を受講して
宗教章「神道」取得
富士スカウト章取得
地区の活動から



【写真提供:公益財団ボーイスカウト日本連盟】

表紙写真

全国から選出された代表スカウト(県代表 安藤 恵みスカウト(安孫子第1団))が集い、「新しい100年に向けてスカウトは何をすべきか」テーマについて討議した、第25回全国スカウトフォーラムより。

第6回 千葉県ベンチャー

9月21日から23日にかけて、日本連盟那須野営場において、第6回千葉県ベンチャーが開催されました。ベンチャースカウト23人が参加し、ローバースカウト2人の他県コミッショナーはじめ17人、合計43人が参加しました。那須の大自然のもと、様々な活動とフォーラムを実施しました。



第6回千葉県ベンチャーに参加して

なぎさ地区 浦安第2団 ベンチャースカウト隊 | 松永 涼佳

私は1日目の夜からの参加でしたが、2泊3日の中でとても充実した時間を過ごすことができました。参加する前は、初めて会う同じ班のメンバーの皆さんとコミュニケーションをしっかりとれるのが不安でしたが、そんな心配は無用で楽しく仲を深められました。

初めての県フォーラムでは、たくさんの意見が出る議論の難しさを実感しながら、一参加者として可能な限り班内での話し合いや思考を重ねました。議論を進めてくださった議長団の皆さんにとっても感謝の思いが強いです。また、その姿を見て議長団という役職にも興味を持ちました。機会があればぜひ挑戦してみたいと思います。

那須野営場という、価値のある場所で3日間生活できて本当にいい経験になりました。気候も過ごしやすく、今では私の中で思い出の詰まった特別な野営場の1つです。貴重な経験に感謝し、これからもボーイスカウトの活動に励んでまた泊まれる日を楽しみにしたいと思います。

県代表としての抱負

かわかぜ地区 我孫子第1団 ベンチャースカウト隊 | 安藤 恵み

この度、第25回全国スカウトフォーラムに千葉県連盟代表として参加させていただくことになりました。かわかぜ地区我孫子第1団の安藤恵みです。

私は9月に行われた、県フォーラムに参加し「高校生年代×地域社会～私たちだからできること～」のテーマについて、集まったスカウトと共に考えました。参加者それぞれが事前に考えてきた、地域の課題と改善案を、各グループの中で発表し意見をまとめました。その後、全体で各グループの意見を発表しました。そして、どの課題も地域のコミュニケーション不足が原因になっているのではないか、また、それを改善できれば解決できるのではないかと、という意見にまとまりました。

全国フォーラムでは、県で決まった意見を責任を持って発表し、他の参加者の意見を真剣に聞き、討議に積極的に参加したいです。今回このような機会をいただいたことに感謝し、たくさんのことを学んできたいと思います。



第13回

日本アグーナリー

We Can!
ふかめよう友情(ゆうじょう)!
ひろげよう絆(きずな)!

日本アグーナリーは、キャンプを通じて、全ての参加者が障がいについての理解を深め、人格と個性を尊重し支えあう社会の実現を目指すことを目的に4年に1回開催されています。第13回は、令和6年8月8日から12日にかけて福島・国立磐梯青少年交流の家で開催され、千葉県連盟からは参加隊に48人、本部奉仕13人、チャレンジグループ6人、派遣団本部5人、合計71人が参加しました。



スカウトの支援を通して

うみかぜ地区 千葉第1団 ローバースカウト隊 | 村上 の子

今回のアグーナリーに向け、目標をもって参加しました。障がいをもつスカウトのニーズを探りながら支援に当たること、スカウト同士の関わり合いをよく観察し、自らよく働きかけることでスカウトの充実した活動につなげることでした。

私は参加隊に付いて、障がいをもつスカウトの支援に当たる役目を担いました。まずは、どのようなことができ、どのようなことに困り感を覚えるのかを関わっていく中でよく観察することを心掛けました。自分のことは難なくこなすが、周囲の状況を把握することが難しいのだな、集合時間から逆算して物事をこなすことが難しいのだな、などと共に活動するなかで見えてくるようになりました。

スカウトを観察し、実態を把握するだけでは支援とは言えません。観察しながらも、より充実した活動となるための手助けをしなければなりません。ここで気をつけたのは、支援する場面と見守る場面の区別をすることでした。この判断はとても難しいものでした。本人にやらせるべき活動ですが、時間の都合でついサポートをしすぎてします。教えるだけでなく、どうしたらよいかスカウトに問いかけることで、自分で達成したんだという実感を持たせるようにしたかったのですが、その機会を奪ってしまったこともいくつかあったと思います。

昨日できたことでも、今日の気分次第では難しくなります。本当にできないことなのか、甘えているのかを見極め、ときに耐えて待つこともスカウトの成長のために大事なことだと学びました。

今回、アグーナリーを通して最も重要だと考えたことは、スカウトが活動を通して達成感を味わい、楽しいと感じることです。障がいの有無に関わらず、誰もがスカウト活動で達成感を味わうためにはそのための支援や工夫が欠かせません。自分でできることは自分でやる。ひとりではむずかしいことをやり遂げるために仲間がいる。支援者の視点としては、褒めることでスカウトに達成感を与えられると思います。その子に合わせて、些細なことでもできたことを褒め、自信につなげるのです。

インクルーシブなスカウト活動を実現するためのヒントと課題を得ることができ、充実した経験となりました。今後のスカウト活動および学業につなげ、障がいの有無に関わらず、すべてのスカウトのちかいとあわせての実践に貢献したいと思います。

第13回日本アグーナリーに参加して

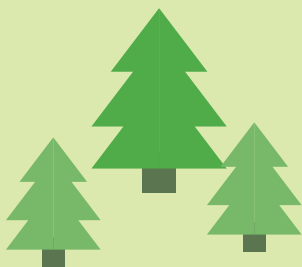
なぎさ地区 市川第3団 カブスカウト隊 | 杉田 光

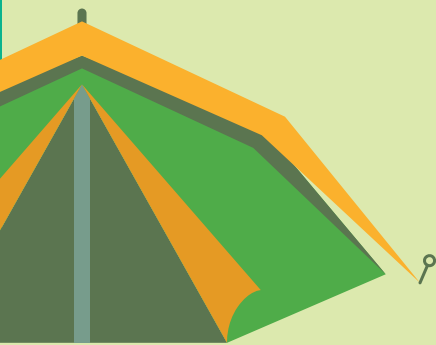
場内プログラムで竹細工で自分のマイカップをつくったことが一番心に残っています。ほかには、缶バッチで自分なりの絵を書き、革細工も細くインクでぬったり、ドリームドームで夢を書いたり、水合戦でみんなとはしゃいだりするのが楽しかったです。

ほかには、場外プログラムでは、野口英世記念館で英世さんのすごさや細菌の大きさ、特徴、増える映像があって、ウイルスの動きなどもあってすごくわかりやすくて楽しかったです。

最後に、ぼくにはどんな障がいがあるかと一緒にあそんだり、おどったりしてすごく、すてきな人たちだとぼくは思います。

アグーナリー最高!!





アグーナリーの思い出

なぎさ地区 浦安第2団 ローバースカウト隊 | 長平 天地

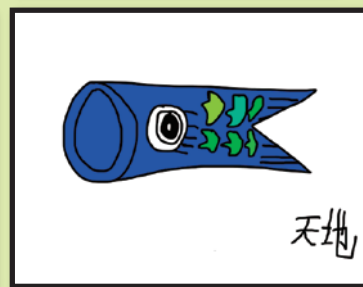
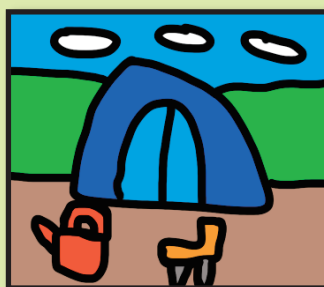
キャンプ中外でテントを建てました。プログラムで鯉のぼりに絵を書きました。つりもしました。

千葉県派遣隊で健太君や仲田隊長、目黒さん、岡島リーダーと楽しく過ごしました。

食事はカレーライスが一番おいしかったです。

千葉県の代表になって佳子内親王殿下に挨拶しました。

ボーイスカウト楽しいですと答えました。



第13回日本アグーナリーを終えて

うみかぜ地区 千葉第6団 ローバースカウト隊 | 山田 佳樹

私はこの度、本部スタッフの活動サービスセンター員として2つのプログラムを担当しました。

場内プログラムでは、防災をスカウトに向けて説明する業務にあたりました。「災害が発生した際の備え」という内容をどのように効果的に伝えるかを考えながら進行することは難しさの伴いましたが、後輩スカウトの理解度に応じて説明をすることで、対応力の向上に繋げることができました。

場外プログラムでは、外国スカウト派遣隊の添乗員として、目的地の紹介や現地での通訳などの業務を担当しました。大会を通じて、多様なスカウトと上手に交流していくためには、1人ひとりのニーズを察知し、必要に応じて適切に「声がけ」を行うことが大切であると学びました。

また本大会には自身の弟も参加し、今後のスカウト活動における関わり方を学ぶ機会となりました。様々なスカウトとの交流を通して身につけた洞察力、どのような要望に対しても対応できる柔軟性を、これからの活動に繋げてまいります。

救急法講習会を受講して

自信が芽生えた救急法講習会

なぎさ地区 船橋第3団 ベンチャースカウト隊 | 瀬良 允

私は7月21日にボーイスカウトの救急法講習会に参加しました。この講習は、単なる技術習得だけでなく、自分自身や他者の命を守るための重要なスキル、知識を学ぶ貴重な講習でした。

講習は、まず簡単な講義から始まりました。講師の方が丁寧に教えてくださり、実際に写真などを使って教えていただきスカウトに何かあったときなどに何をすればいいのかなどの緊急時の知識が深まりました。心臓マッサージの実習では、心臓マッサージのリズムや手の位置、呼吸の確認など、細かいポイントを何度も繰り返すことで、正しい手順を身につけることができました。

特に印象に残ったのは、グループで実践したシナリオトレーニングです。実際の場面を想定し、仲間と協力して対応することの重要性を実感しました。緊張感のある中で、冷静に判断し行動することがどれほど大切か、改めて考えさせられました。

また、講習を通じて、救命措置が必要な場面に出会った時、自分がどう行動すべきか考える訓練ができたことも大きな収穫になりました。単に技術を学ぶだけでなく、いざという時の心構えや

鋭い判断力を養う大切さを理解することができました。講習を終えた後、自分の中に一つの自信が芽生えたような気がします。人の命を救うために何ができるかを真剣に考え、行動に移ることができるスキルを得たことは、今後の人生において非常に価値のある経験になりました。

最後に、この講習を通じて得た知識と技能をしっかりと活かし、さらなる学びを続けていきたいと思いました。



宗教章「神道」取得

八千代第2団ボーイ隊 嶋田悠右スカウト

信藤利里愛スカウト

二人は、教導職による指導のもと神道について学び、教宗派当局が認証、日本連盟より宗教章が交付されました。9月1日、香取神宮において授与式が執り行われ、香田隆造教導職(香取神宮 禰宜)より「宗教章は、教養の進歩記章である」との貴重なお言葉をいただきました。



神道から学んだこと

おおとね地区 八千代第2団 ボーイスカウト隊 | 嶋田 悠右

私が神道に出会ったのは、中学2年生の歴史の授業でした。日本古来からある宗教であり、日本人の精神や日常生活に密接に関わっており、興味深く感じたのが神道章を取得しようと思ったきっかけでした。

神道章の取得に当たり、香取神宮の教導職の方々による講習、5つの神社を巡る清掃活動などを通じて、スカウトが信仰心を持つことの意義、神道とはどのようなものかについて学ばせていただくことができましたが、その中でも特に印象に残ったことが1つあります。

それは神道の「今中」という考え方です。これは過去や将来ではなく「今」を大切に生きるというものです。

今回、神道章を取得したことをスタートとして、家族やボーイスカウトの指導者の方々、そして仲間たちに感謝の気持ちを常に持ち、スカウトや学生として努力を惜しまずあらゆることにチャレンジして、後悔の無い時間を過ごしたいと思います。

富士スカウト章取得

私のスカウティング

うみかぜ地区 千葉第6団 ローバースカウト隊 | 山田 佳樹

私がボーイスカウトを始めたのは、小学5年生の時です。人前で立つことが得意ではなかった私ですが、班長などの役割を担う中で、徐々にその苦手意識を克服していくことができました。また、主体性を持って行動することや、他者と協力することの重要性を理解していくようになりました。

これまでのスカウト活動で、最も身についたと感じることは「PDCAサイクル」の考え方です。単に実施して終わりなのではなく、企画の段階から計画を立て、実施後には評価および反省を行い、

そこから得た学びを次にどう繋げるかが大切であるということを実感しました。

「富士スカウト章」はベンチャースカウトとして最終の進級課程ではありますが、私にとってこれは一つの目標に過ぎず、決してゴールではないと考えています。なぜなら、この取得を通じて培った協調性やリーダーシップ力は、今後人生を歩んでいく中で生きてくる時があると確信しているからです。

今後も、後輩スカウトたちを積極的に支援しながら、努力を続けていきたいと思っています。

そして常に感謝の気持ちを持って、様々な活動に挑戦し、より良き社会人となるために精進してまいります。

キャンプで楽しかったこと

なぎさ地区 船橋第14団 カブスカウト隊 | 長津 駿斗

9月14日～16日千葉県少年自然の家に行きました。

まず1日目は、カレー作りがみんなで協力できたので、前回より時間はかかったけれど、その分おいしくできました。

夜の森は初めてで、少し不気味でした。いつ動物におそわれるかわからないのが、スリルがあってどきどきしました。空には1等星が見えて、とてもきれいでした。寝るときは、まど側だったので、いつイノシシがでてくるかヒヤヒヤしてなかなか寝れませんでした。電気をみんなにお願いしてつけてもらえて安心しました。初めてのねぶくろはポカポカで気持ちよかったです。

2日目は、森で遊びました。「ジャングルの中をぼうげんだ!」でポイントを回るのはつかれたけど、楽しかったです。まがたま作りはヤスリでけずるのが大変だったけど、作り終わった後の達成感がよかったです。キャンプファイアは、予想以上に燃え広がっておどろきました。熱かったです。

3日目は、クライミングウォールをしました。ルートを考えてがんばって登ったけど、じっさいに登るのがむずかしくて失敗しました。またリベンジしたいです。初めての2泊3日の舎営は、とてもつかれたけど良い思い出になりました。



リバモア隊との交流を終えて

おおとね地区 四街道第2団 ボーイスカウト隊 | 吉岡 快

私は、今回のリバモア隊との交流を終えてたくさんのことを学びました。例えば、リバモア隊のスカウトが登山中に息切れすることなく登っていたので、どうして息があがらないのか聞いてみると、彼は日常的に空気トレーニングという酸素が少ない場所でも活動できるようなトレーニングをしているので慣れていると答えました。他には、いかだづくりを行った際には、彼らは自分以外の人が試している様々な結び方を見てから、いかだの強度を高めるためにはどのように結べばいいかを、大人に聞かなくとも自分たちで考え結ぶことができていました。しかし、私には、それを見てだけで率先してリバモア隊のスカウトたちのように自ら考え行

動することができませんでした。これを機に自ら考え、行動することを心がけていこうと思いました。

私は、英語が全く話せませんでしたが、登山中は休憩する度にリバモア隊の人々とハイタッチを交わすことを心がけていました。登頂に時間がかかりましたが、頂上では、リバモア隊のスカウトたちが待っていて、あちらからハイタッチをしてくれ登頂できた喜びや努力を称えあうことができました。言葉の壁に臆することなく積極的な交流を持つとすることが互いの距離を縮めることにつながったと感じました。

最後に、今後はこの経験で得たことを日常の生活でも忘れることなくボーイスカウト活動に活かしていきたいと思えます。



【スカウトちばANNEX対応記事】

第13回日本アグーナリー、地区の活動紹介の感想は、スカウトだけでなく指導者からも頂きました。

これらは、スカウトちばANNEXでご覧いただけます。

https://www.scout-chiba.jp/member/category/sc_annex/



【発行者】

日本ボーイスカウト千葉県連盟

〒260-0001 千葉市中央区都町2-1-12 千葉県都町合同庁舎4階

TEL.043-235-8070

運動拡充委員会 編集責任 嶋田 敏裕

詳細は、日本ボーイスカウト千葉県連盟ホームページをご覧ください <http://www.scout-chiba.jp>



お問合せは